

島田先生への質問

途上国に必要なのはフェアトレードか、ビジネスか
～グローバル化の中で経済格差をどう教えるか

- ① 中学校では、中学一年生の1学期（4月～7月）から2学期（8月～12月）にかけて「地理：世界の様々な地域 アフリカ州」の授業で、「プランテーション」や「モノカルチャ経済」を扱います。また、「南アメリカ州」では「環境保全」や「持続可能な開発」を扱います。

その後、中学3年生の2学期から3学期（1月～3月）の「公民：私たちと国際社会の諸課題」で「貧困問題」や「難民問題」を扱います。

私は、1年生の地理：アフリカ州では、「カカオのフェアトレード」を扱っています。中学1年生は、小学校時代に世界地理はほとんど学習していませんので、アフリカがどこにあって、どのような国があるのかほとんど知らない状態で授業を迎えます。そこで、「チョコレートの原料は？」とか、「カカオは甘いのか？」などの身近な事から入り、コートジボアールの農場の実態や、アフリカと欧米諸国とのつながりを学習して、課題を作らせ、その解決方法を考えるという授業です。その中で、「フェアトレード」の取り組みを紹介しました。

中学3年生の公民では、国際社会の中の課題の1つとして「貧困問題」を扱い、地理学習や歴史学習で学んだ知識を総動員して、「貧困問題」をどう考え、どのように解決していけば良いのかを話し合わせる、というような授業です。

そこで、中学生にとって「経済格差」をどの程度理解させると良いのか。そのために我々教師は、どのような学習内容が必要なのか、教えて頂ければと思います。

例えば、開発途上国の実態を踏まえた援助の在り方を考察させた方が良いのか、または、農業生産効率や、工業生産効率の向上に重きをおいた考察の方が良いのか、迷っています。

- ② 島田先生のお話の中で、「島田ゼミ 明治大学SDGs コーヒープロジェクト」が大変興味を引きました。大学生にとってこの取り組みは、「貧困問題」を自分事に落とし込む方法の一つであると思いました。この「自分事」は中学生、高校生、大学生、社会人とレベルは違っているとは思いますが、何かを始める第一歩は、この「自分事」が原動力の1つになると思います。

そこで、島田先生がこのコーヒープロジェクトを作った当初の学生の様子や、その後の学生の反応など、お聞かせ頂けないでしょうか？ よろしく願いいたします。